

箕面・外院ワークショップ

クルマに依存しないまちづくり

関西大学 建築環境デザイン研究室

外院の今の姿

外院の住宅地と商業地の位置

現在の外院地区は中心に住宅のみのエリアが存在し、その周りに店舗、商業エリアなどが存在している。

多くの店舗は、駐車場を併設した郊外型の店舗になっている。

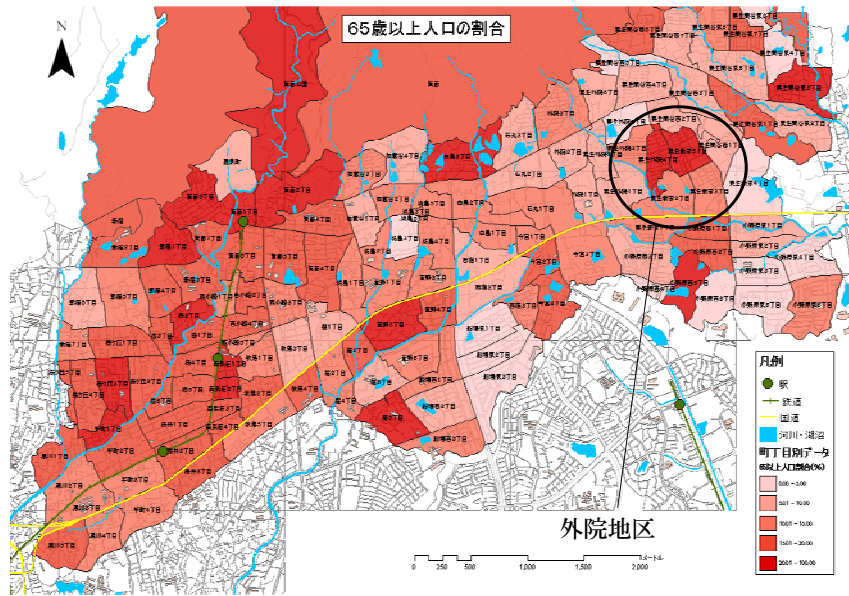


外院に多く見られる風景

人のいる気配をあまり感じることができないように感じる。
まちを歩いていて人と会う機会がなかなかなかったことが少し残念に感じた。



箕面市の65歳以上の人口の割合



まち全体がのっぺりしている。
 同じように分けられた街区と道。
 住民の層の偏り。

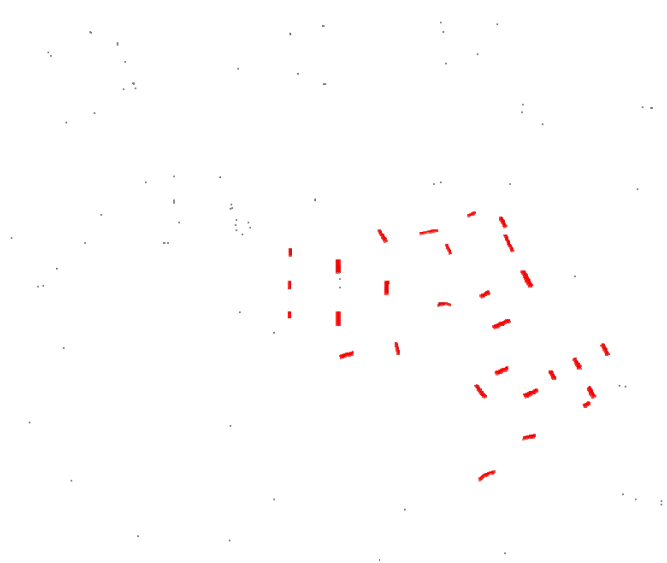
—歩いて暮らすまちにするためには。—
を考える。

歩いて退屈しない楽しい道をつくる

現在の単調な道を楽しみと思える道に変える計画。
木を植えたり地面をアスファルトだけでなく芝や
木や石の道をつくり変化をつけて道ごとの雰囲気
を楽しむ事ができる。車の侵入を抑えて人が安心
して歩ける道をつくる。

道を変える場所

家と家の間の道を変えていく。緊急車両の通行が可能な範囲で歩行者の為の道にする。歩行者道という認識から一般車両はこの道を避けて通り迂回するため近隣住民は近くなれば楽しい道を車ではなく歩いていこうという気持ちが生まれる。



before



after



before



after



歩いていける楽しい場所をつくる。

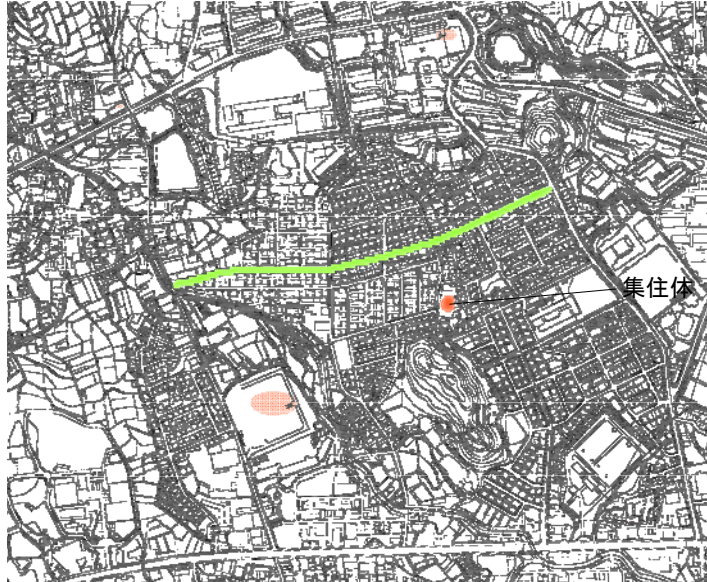
住宅のみが集まって出来ている中心の地域に、行く先をつくる計画。いろいろな層の住民が暮らせるように、単身者、お年寄りなどの暮らしやすい、集まって住むカタチを提案する。

また、このまちの真ん中にあるバス通り、今は車が通るだけのものになっているこの道を、人が歩き、とどまれる場所にする。

地域の核となる施設とバス通りの計画

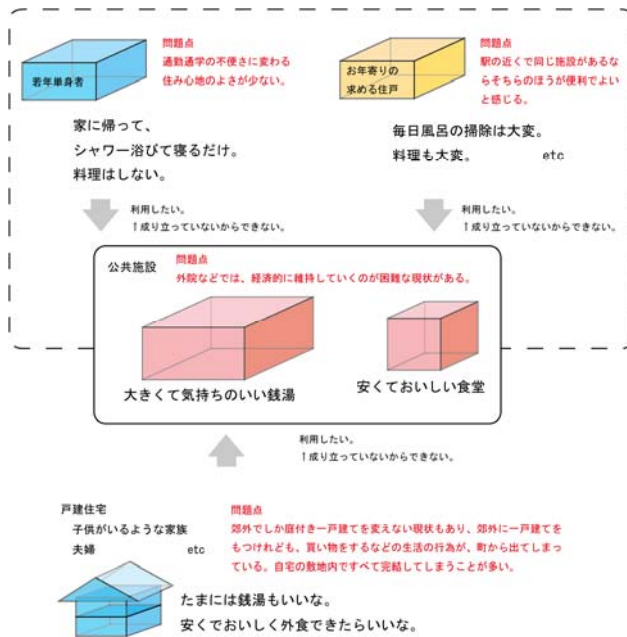
住宅ばかりが集まっている外院の中心部分に地域の核になるような集住体を提案する。

バス通りも今の二車線の大きな通りもつと人の歩きやすい道をつくる。



今は、様々な住宅、店舗がバラバラになっている。

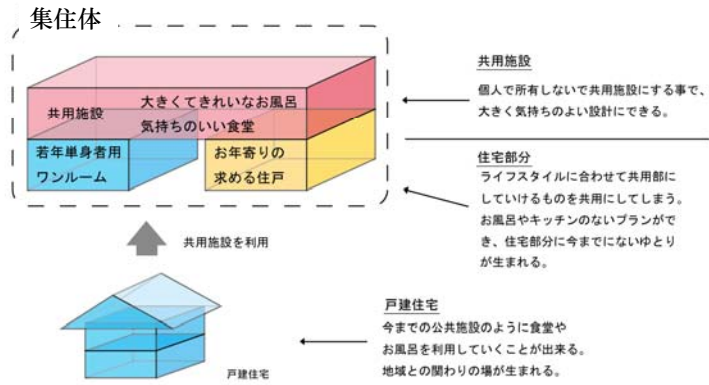
店舗などの商業的要素が大きく関わるものは外院のように住宅だけの街の中に入っても成立することが難しい現状にある。



バラバラなものを合わせて使えるようにする。

集住体の共用部分を、まちにとっての共用部分にする。

集住体で暮らすひとは、食事、お風呂などの機能を共有することで、個人で持つより、広く気持ちのよいものをつくることができる。また、維持管理をしてくれる人がいることで、自分のライフスタイルに合った居住形態が実現する。



まちを横断する道を歩行者が通りやすいようにする。

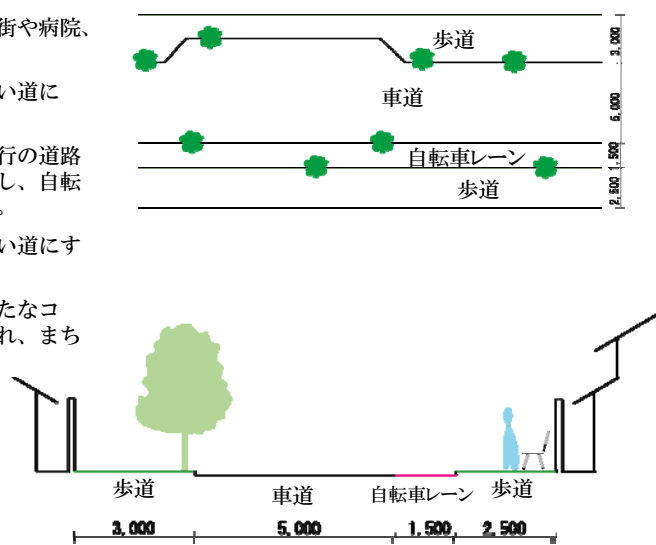
外院地区を横断し、商店街や病院、バス停がある道。

現在はクルマが通りやすい道になっている。

それを、一車線の一方通行の道路にし、両側の歩道を広くし、自転車レーンを新たに設ける。

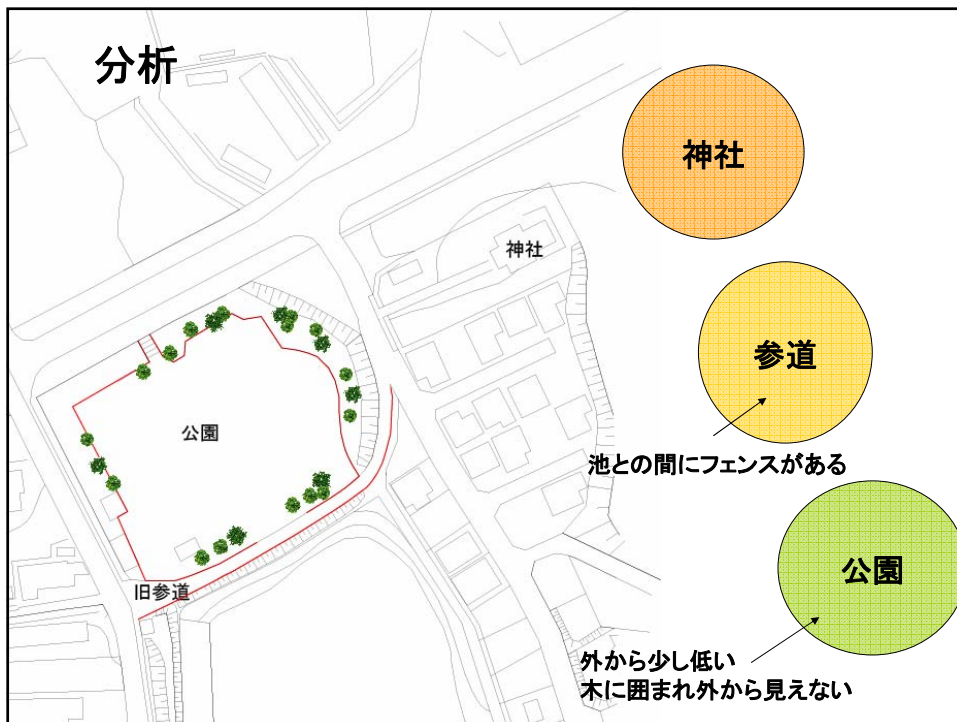
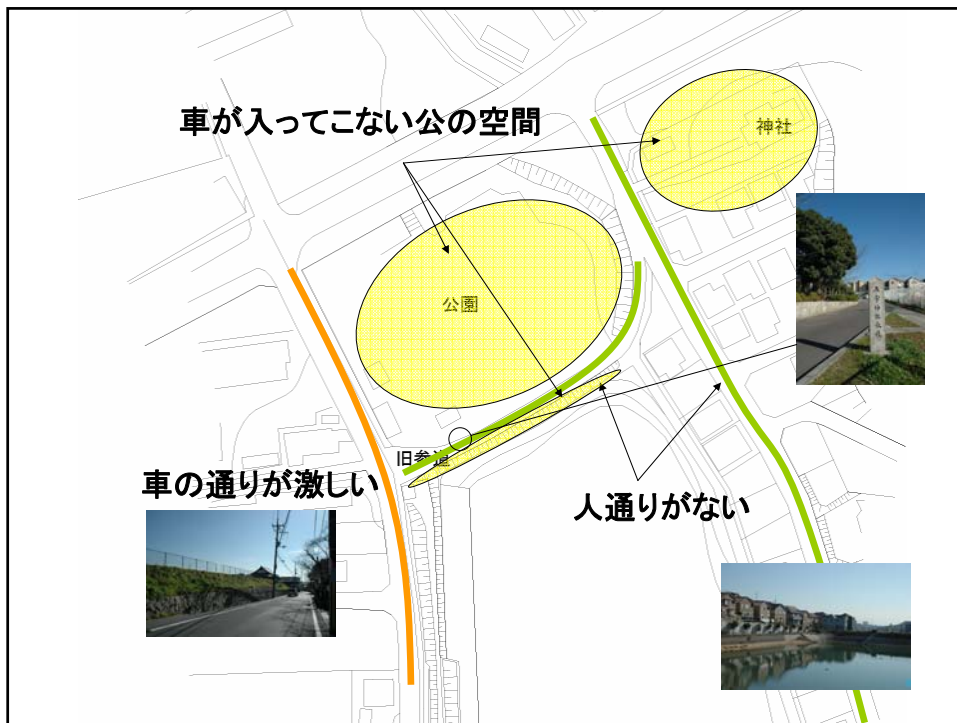
歩行者にとって通りやすい道にする。

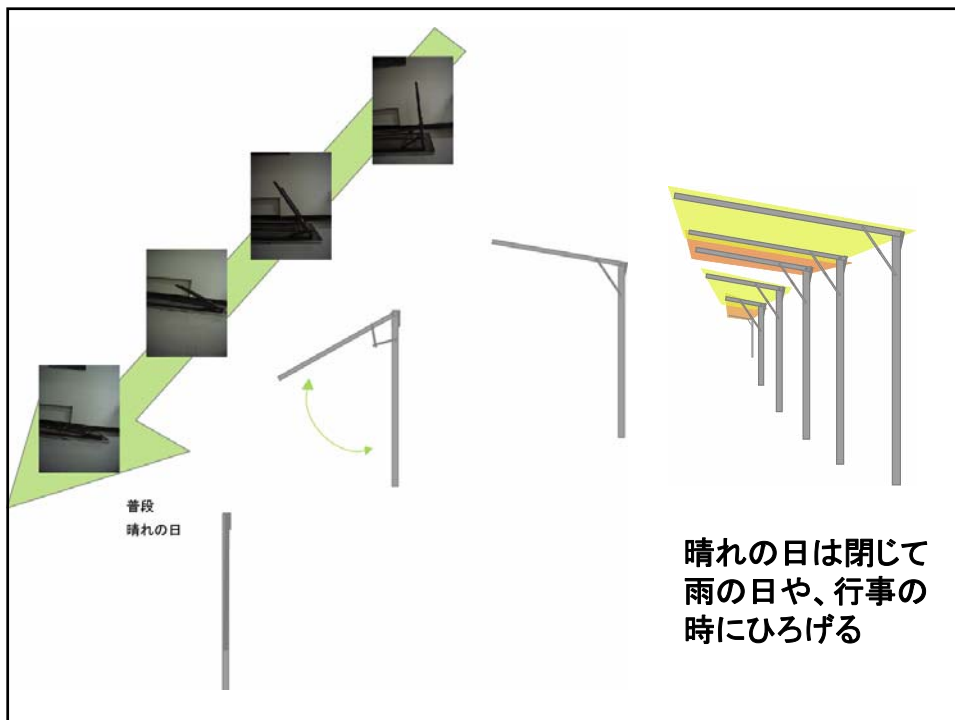
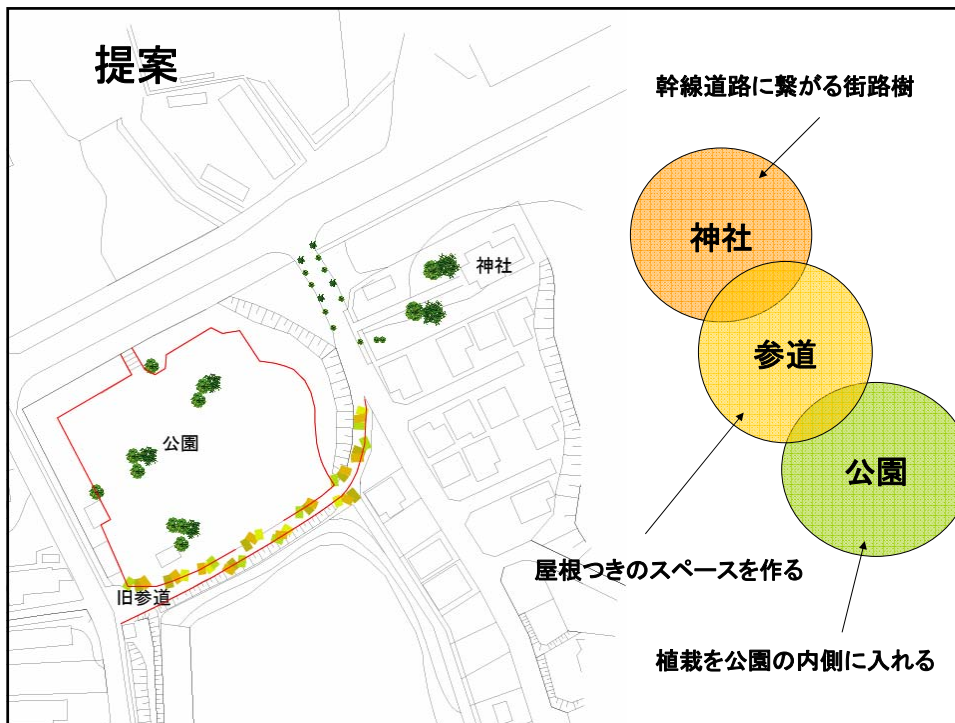
広がった歩道では、新たなコミュニケーションが生まれ、まちが活気付く。

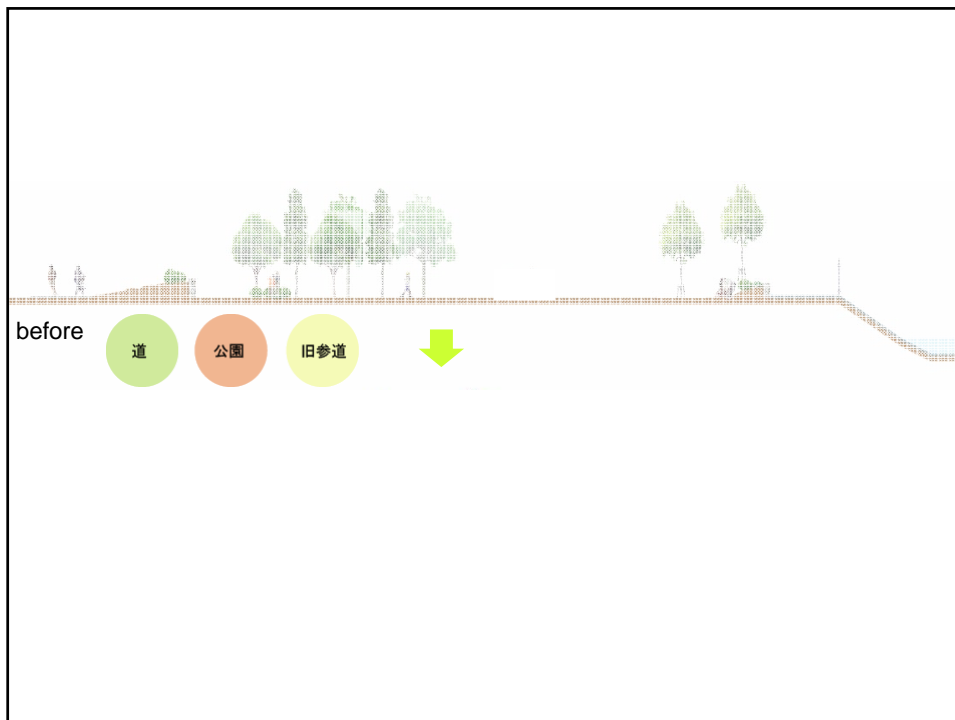


道をもっと利用する。

時間、季節、いろいろな表情が表れる道をつくる
計画。朝、昼、夜で、さまざまな表情を見せる道
をつくる。



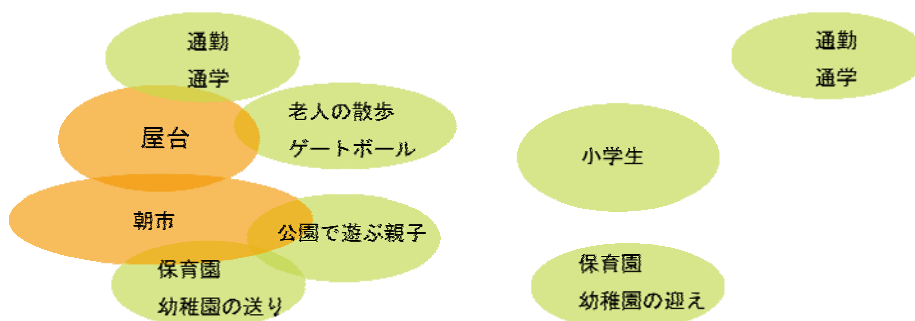




使われ方

タイムテーブル

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21



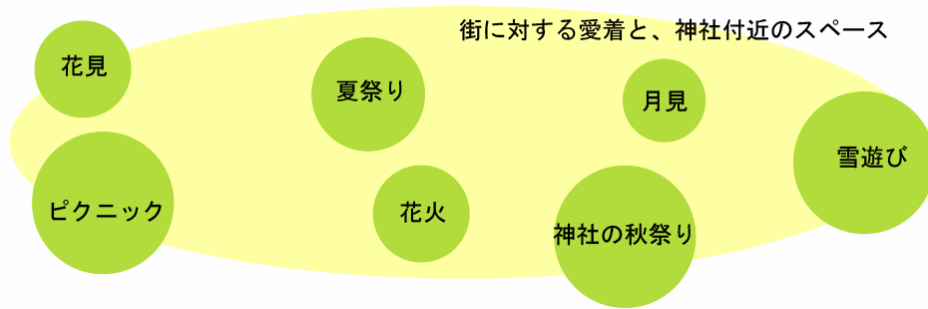
年間行事

春

夏

秋

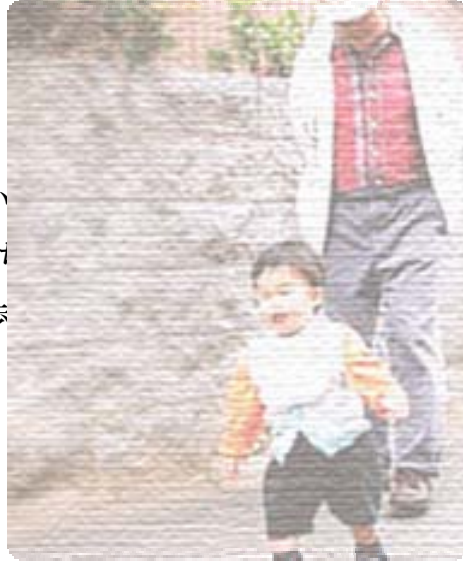
冬



普段から使うことで、愛着がわき街全体の行事につながる



いろい
ま
そのまちを歩



える。
か
いだろうか。

fin